

2019年7月7日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「二つのものを一つに」

聖書：創世記37:1～11、エフェソの信徒への手紙2:14～16

この物語は家族の不幸な現状を表す。親の偏愛が、兄弟の仲を引き裂く。《兄たちは、父がどの兄弟よりもヨセフをかわいがるのを見て、ヨセフを憎み、穏やかに話すこともできなかった》とある。ヨセフに着せた「裾の長い晴れ着」とはただ単に兄たちよりもいい服というだけでない。サムエル記下(13:18,19)に出てくる「上着」と同じ意味を持つ。その上着は、未婚の王女が着る服を意味し、つまり父ヤコブは、息子ヨセフをこの家庭の中で王女様のように持ち上げていたということ。裾の長い服とは労働に適さない。他の兄たちが皆、裾の短い働きやすい服を着て、汗水流して働いている中で、ヨセフは王女様のようにのうのうと暮らしていたのである。兄たちが「ヨセフを憎み、穏やかに話すこともできなかった」理由がそこにある。そして、ヨセフは「聞いてください。わたしはこんな夢を見ました。」と兄たちや父の前で語る。まさに彼らの神経を逆撫でするような内容を話すのであった。

偏愛により生み出された憎しみ、苦しみ、悲しみ。その不幸がヤコブの家族を覆う。この出来事は、私たちの社会の中でよく見ることである。私たち自身の中で、子育てやあるいは自分自身がそのように育てられたと言うような経験は、多かれ少なかれあることかもしれない。聖書は、そういう人間社会の縮図を覆い隠すのではなく、あえてその現実をあらわにする。それは何故か？ 何故、醜い家族の状況を聖書は記すのか？・・・それは、神が現実の社会の只中に居られ、あなたのそう言うところを見ておられて、ご存知であるということ。あなたの憎しみ、苦しみ、悲しみ、弱さをご存知であるということを聖書は神のメッセージとして記している。

この物語の結末が人の思いを超え、売られたヨセフが、後にエジプトの総理大臣となり、飢饉で苦しむヤコブの家族を救うこととなり、崩壊していた家族に再び和解がもたらされて、家族が一つになって暮らすことを記す。あのヨセフの夢の出来事が現実のものとなる。そういう壮大な結末でこの物語は終わる。

この物語から覚えないことは、神は決して、二つのものが隔てられること、憎しみ合うことを望んではおられないということ(エフェソ 2:14 以下)。キリストの十字架がまさに、すべての和解への犠牲であることを忘れてはいけない。神が望んでおられる「二つのものを一つに」することは現実的に乏しいことであろう。それでも祈り求めて行くところに、私たちの幸い、恵みがそこにはある。神の壮大な御手の中で、生かされていることを覚えない。(神谷)